

日本生物武器作战调查资料

〔日〕近藤昭二 王 选 / 主编

第二册

日本生物武器作战调查资料

〔日〕近藤昭二 王 选 / 主编

第二册



社会科学文献出版社
SOCIAL SCIENCES ACADEMIC PRESS (CHINA)

目 录

4 证据——731 部队金子顺一、高桥正彦论文集

4.1 金子顺一论文集	467
4.1.1 雨下散布ノ基礎的考察（表紙）	467
4.1.2 低空雨下試験（表紙）	469
4.1.3 PX 効果略算法	471
4.1.4 微粒ニヨル紙上斑痕ニ就テ（表紙）	500
4.1.5 X.cheropis ノ落下状態ノ撮影（表紙）	502
4.1.6 X. 航空撒布ニ於ケル算定地上濃度（表紙）	504
4.1.7 火薬力ニ依ル液ノ飛散状況（表紙）	506
4.1.8 しろねずみヨリ分離セル「ゲルトネル」菌ノ菌型（表紙）	508
4.2 高桥正彦论文集	510
4.2.1 「ペスト」皮膚反応	510
4.2.2 昭和 15 年農安及新京ニ発生セル「ペスト」流行ニ就テ 第 1 編 流行ノ疫学的觀察 （其ノ 1）農安ノ流行ニ就テ	547
4.2.3 昭和 15 年農安及新京ニ発生セル「ペスト」流行ニ就テ 第 1 編 流行ノ疫学的觀察 （其ノ 2）新京ノ流行ニ就テ	567
4.2.4 昭和 15 年農安及新京ニ発生セル「ペスト」流行ニ就テ 第 2 編 流行ノ臨床的觀察 附「ペスト」血清殺菌反応ニ就テ	600
4.2.5 昭和 15 年農安及新京ニ発生セル「ペスト」流行ニ就テ 第 3 編 流行ニ於ケル 菌検索成績	631
4.2.6 昭和 15 年農安及新京ニ発生セル「ペスト」流行ニ就テ 第 4 編 流行ニ於テ分離セル 「ペスト」菌ニ就テ	649
4.2.7 昭和 15 年農安及新京ニ発生セル「ペスト」流行ニ就テ 第 5 編 流行ニ於ケル防疫 実施ノ概況	684
4.2 附录 ペスト防疫報告書（1940 年）（节选）	698

5 远东国际军事法庭国际检察局调查

5.1 2. April 1947: IPS Documents No. 1895, 1896	743
5.2 IPS EVIDENTIARY DOCUMENT NUMBER 1896: Affidavit of HATABA, Osamu, on Bacterial Warfare carried on by EI 1644 Force in China, 1943	750
5.2 附录 1 3 Dec. 1944: SINTIC ITEM #185: Prisoner of War Interrogation, POW#229	768
5.2 附录 2 4 Dec. 1944: Bacterial Warfare, JICA//10,596, JOSEPH K. DICKEY, Col. GSC, G-2, China Theater, U. S. Army Forces	771
5.2 附录 3 6 Dec. 1944: Water Supply and Purification Unit, Japanese Army, Report No. 10595, JOSEPH K. DICKEY, Col. GSC, G-2, China Theater, U. S. Army Forces	774
5.2 附录 4 13 Dec. 1944: Japanese Chemical and Bacteriological Warfare in China, TO: JICA, HQ, USF, China Theater, Rear Echelon, FROM: JOHN A. BURDEN, Maj., A.U.S.	783
5.2 附录 5 2 Jan. 1945: OSS, Reported Japanese Use of Disease Serums and Cultures, 9, Dec. 1944	790
5.2 附录 6 5 Mar. 1945: OSS, Jap "Anti-Epidemic & Water Supply Section", Bacteriological Warfare	793
5.3 美国检察官 Thomas H. Morrow 与 David N. Sutton 向首席检察官 Joseph B. Keenan 提交的有关报告	798
5.3.1 2 Mar. 1946: Sino-Japanese War, Memorandum to: Joseph B. Keenan, From Thomas H. Morrow, Col.	798
5.3.2 8 Mar. 1946: Report Assignment "B", TO: Mr. Joseph B. Keenan, Chief of Counsel, FROM: Col. Thomas H. Morrow	811
5.3.3 16 Apr. 1946: REPORT OF TRIP TO CHINA, TO: MR. JOSEPH B. KEENAN, FROM: THOS. H. MORROW	815
5.3.4 23 Apr. 1946: REPORT FROM CHINA, BACTERIA WARFARE, David Nelson Sutton ...	832
5.3.5 25 Apr. 1946: Bacteria Warfare, TO: Mr. Joseph B. Keenan, Chief of Counsel, FROM: David Nelson Sutton	870
5.3.6 4 May 1946: Evidence of Japanese Use of Chemical Warfare agents in China, TO: Chief, Chemical Warfare Service, FROM: GEOFFREY MARSHALL, Col. CWS, Chief Chemical Officer	872
5.3.7 8 May 1946: Japanese Use of Chemical and Bacteriological Warfare Agents in China, TO: Chief, Chemical Warfare Service, FROM: GEOFFREY MARSHALL, Col. CWS, Chief Chemical Officer	878

5.3.8 18 May 1946: Thomas H. Morrow 881

5.3.9 4 Jun. 1946: MEMORANDUM, Subject: Interrogations, by JOSEPH B. KEENAN, Chief of
Counsel to the staff of the International Prosecution Section 883

5.3.10 13 Dec. 1946: MEMORANDUM FOR MAJOR-GENERAL A. N. VASILYEV, Subject:
Bacteriological Warfare, Frank S. Tavenner, Jr. 885

5.3.11 2 Sep. 1947: List of Attorneys-IPS 887

4 证据——731 部队金子顺一、 高桥正彦论文集

4.1 金子顺一论文集

4.1.1 雨下散布ノ基礎的考察（表紙）

资料出处：日本国立国会図書館関西館蔵、博士論文、UT51- 医 29-197。

内容点评：《金子顺一论文集》为日军细菌战部队核心研究人员金子顺一于1944年12月向东京大学申请医学博士学位提交的论文集。该论文集为战后以来日本国内发现的日本军方两大细菌战重大证据材料之一。

《金子顺一论文集》由8篇研究战时细菌战的论文组成，本资料为《陆军军医学校防疫研究报告》第1部第41号《雨下散布的基础考察》，1941年8月11日提交，为8篇论文中的主论文。“雨下”指空中散布细菌等物质。限于篇幅，此处仅收入论文封面。

陸軍軍醫學校防疫研究報告
第1部 第41號

雨 下 撒 布 ノ 基 礎 的 考 察

陸軍軍醫學校防疫研究室(部 長 石 井 少 將)
陸軍軍醫大尉 金 子 順 一

軍 事 秘 密

第 1 部
綜 說
分 類 392—0081
受 附 昭和 16. 8. 11

4.1.2 低空雨下試験（表紙）

资料出处：日本国立国会図書館関西館蔵、博士論文、UT51- 医 29-197。

内容点评：本资料为《陆军军医学校防疫研究报告》第1部第42号，1940年6月7日提交，作者为增田美保、金子顺一，题目：《低空雨下试验》。限于篇幅，此处仅收入论文封面。

陸軍軍醫學校防疫研究報告
第1部 第42號

低 空 雨 下 試 驗

加 茂 部 隊
陸軍藥劑大尉 增 田 美 保
陸軍軍醫大尉 金 子 順 一

軍 事 秘 密

第 1 部
叢 報
分 類 392--0081 502--2
受 附 15. 6. 7

4.1.3 PX效果略算法

资料出处：日本国立国会図書館関西館蔵、博士論文、UT51- 医 29-197。

内容点评：本资料为《陆军军医学校防疫研究报告》第1部第60号《PX效果略算法》，1943年12月14日提交。“PX”为带鼠疫菌印度客蚤代号。论文以日军对中国各地进行的六次PX攻击的相关数据，参照石井四郎的细菌战“ABDEO”（外因、媒介、病原、内因、运用）理论，推算PX作为武器的“效果”，即“杀伤力”，也就是一定量的PX散布后，引发鼠疫流行，当地感染鼠疫死亡的人数。

陸軍軍醫學校防疫研究報告
第1部 第 60 號

PX 效 果 略 算 法

陸軍軍醫學校防疫研究室（部長 石井少將）
陸軍軍醫少佐 金子 順 一

軍 事 秘 密

第 1 部
原 著
分 類 385-8 441-9 338-41
受附 昭和 18.12.4

目 次

- 第1 緒 言
- 第2 用字説明
- 第3 前提及假定
- 第4 効果路算法
- 第5 効果發現状況
- 第6 既往作戦ニ於ケル變效値
- 第7 目標地區ニ於ケル予想變效値
- 第8 結及参考文献

第1 緒 言

兵器ノ具備スベキ條件ノ一トシテ其ノ使用益ト之ニ依ル効果トノ關係ノ明デアル必要性ヲ考ヘネバナラヌ。

例ヘバ一定正面ノ敵陣地制壓ニ要スル彈丸數ヲ予メ算定シテ始メテ精密攻撃計畫ヲ樹立スル事ガ出來ル。

吾人ノ現有兵器中其ノ質及特性ニ於テ最も優レタ彈種ノ一トシテ之ノPXニ於テモ其ノ效果ヲ予測シ得テ、之ニ基ク製造及運用計畫ヲ修スル事ノ合理的デアルノハ論ヲ俟タヌ。

然ルニPXノ效果ハ其ノ直接優惠致死作用ノミヲ目途トシテモ之ヲ決定スル因子ガ複雑多岐デアルタメ、之ヲ爆彈ニヨル理學的作用ノ如クニ取扱フ事ハ不可能デアルガ、PXヲ兵器トシテ取扱フ以上ハ少クとも之ニ依ツテ期待サルベキ效果ヲ何等カノ手段ニ依リ或ル程度迄ハ概算シ得ル事ガ必要デアルト信スル。

幸ニシテ既往效次ニ渉ル作戦ハ此ノ種ノ問題ノ解決ニ重要ナ規準ヲ與ヘル。他方昭和十五年以來石井閣下ノ提唱ニヨル細菌戰効果ヲABED O説ハ爾後ノ經驗ヲ經テ益々其ノ論據ヲ確立シ來ツタ。

茲ニ命ゼラレテABED O説ニ基クPXノ效果予想ヲ敢テ試ミタノデアルガ、希クハ大東亞戰爭ニ於ルPXノ赫赫タル成果ニ基

キ遂次斯ル考察方法ヲ進展セシメ得ノ事ヲ期スルモノデアル。

第2 用字説明

○A（外因，Äußere Bedingung）

目標地區ニ於ル疫學的外的諸條件ヲ總括ヲ云フ。敵ノ直接防疫工作（S）ヲ含ム。

○B（媒体，Bindemittel）

攻撃ニ用フル病原体ヲ終末對照タル人畜ニ結合セシメル媒介体又ハ媒介機序ヲ總稱スル。即チ本篇内容ニ於テハXガ之ニ相當スル。

○E（病原，Erreger）

病原体及其ノ状態ヲ云フ。一般的ニハ

$$E = f(m, v, r, \mu)$$

ヲ表ハサレル。即チ「メダイレ」説（石井：昭和八年）デアラフテ、 m ：量， v ：毒力， r ：抵抗力， μ ：媒質ヲ意味スル。本篇ニ於テハ第3～前提4ノ通り、 m ハPX1,0 庄ニ含マレルP菌量， μ ハPXノ体組織ニ相當シテ居ルカラ特ニ $E = f(v, r)$ ト考ヘテモ良イ。

○D（内因，Disposition）

當該疫病ニ對スル終末對照ノ罹患要因ノ總括デアラウ。敵ノ間接的防疫工作トシテノ予防接種ノ効果ヲ包含スル。但本篇ニ於テハ密接区、住居條件等ノ内第一次感染ニ關與スル部分ハDニ含マシメ、營養疲勞等ノ内第二次流行ニ影響スル部分ハAニ入レテ考ヘテ居ル。

○O（運用，Operation）

運用ノ總括。方法ノミナラズ運用器材ノ條件、且又ハEノ運用間自然損耗ヲ來ス因子ヲ含ミ、之ガタメ運用時ノ氣象交感ヲモ考慮スル。（疫學的意義ニ於ケル氣象ハ當然Aニ含マレル。）

○彈種係數

攻撃彈種ノ單位量ニ於ル $D \times E$ ヲ云フ。

○運用係數

彈種係數ニ O ヲ乘ジタモノ。

上記2 係數ハ何レモ努力改良ニ依ツテ増加セシメ得ルガ、 A 及 D ハ敵地及敵ノ状況デアツテ目標及時期ニ依リ、自ラ一定シ之ヲ任意ニ變更シ得ヌモノデアル。

第3 前提及假定

前提1° 一定條件ニ於ケル効果ハ使用兵器量ニ比例ス。

前提2° 効果ハ第一次感染ト第二次流行トヨリ成ル。

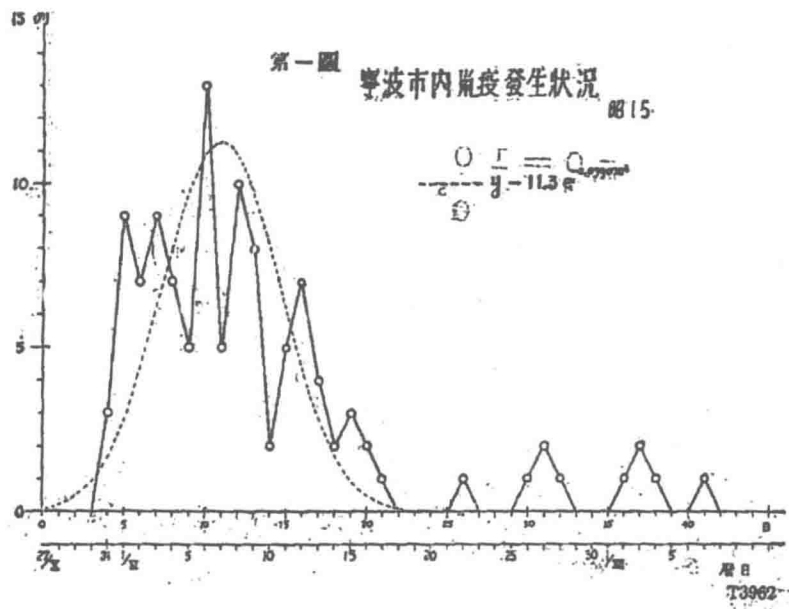
前提3° 効果ハ A, B, E, D, O ノ函數ナリ。

前提4° 本篇ニ於テ述ベル効果トハ $P \times 1.0$ 迄ニ對スルモノトス。(前提1° 参照)

説 明

1) 條件ノ相等シイ數多ノ目標ニ同一條件ノ攻撃ヲ併施スレバ各目標ニ於ケル効果ハ何レモ相等シイト考ヘル。此ノ時全効果ヲ綜合的ニ考慮スレバ前提1° ハ明ニ成立スル。之ヲ擴張シテ一目標ニ對シ異ル種々ノ量ヲ使用スル場合ニ效果ハ使用量ニ比例スルモノトスル。

2) 第一次感染トハ使用シタ $P \times$ ニ依ル直接効果デアルト解釋シ、之ニ依テ感染獸ヲ生ジ之ニ附着シタ在來ノ E ガ毒化シテ發揮スル效果ハ第二次流行ニ算入スル。實際的ニ兩者ノ限界ヲ區別スルノハ困難デアルトシテ概念的ニ2° ハ成立スル。即チ使用 $P \times$ ノ感染獸保持日數ト潛伏期間ヲ加ヘタ時期內ノ效果ノ大部分ヲ第一次感染ト考ヘ第二次流行曲線ト初發點ヲ攻撃時ニ一致セシメル事ニ依テ該期間內ニ理論上發生スル少數ヲ同期間發生數カラ除去スル。昭和十五年寧波戰例ニ於ケル第一次感染發現狀況ヲ例示スレバ第一圖ノ様デアル。



3) 効果ヲ支配スル無数ノ因子ヲA, B, E, D, Oノ範圍ニ分ツテ然ル後個々ヲ検討スル所ニ石井説ノ簡明性ヲ存スル。尤ヨリ細菌戦ノ効果ノ真諦ハ他ニ更ニ精神的經濟的ナ恐慌ヲ招來スルニ在ルジ, 吾人ハ先ヅ直接罹患致死効果ヲ大ナラシムル様ニ努力スル事ニ依ツテ任務ヲ完遂シ得ルモノデアル。從ツテ本篇ニ於ケル効果トハ單ニ罹患致死効果ヲ意味スル。

4) 前提1°ニ基キ效果(R)ハ使用量ニ比例スルヲ以テ, 先ヅPXノ基本量トシテ1, O匹ヲ選定シ之ニ依ル基本效果ヲ求メ, 使用量X匹ノトキハ效果ハXRデアルト見做ス。本篇ニ於ケル效果トハ此ノ基本效果即チ1, O匹ノ效果ヲ指ス。

假 定

1° PX1, O匹ノ最大效果ハ第一次感染1, 000名, 第二次流行ヲ含ム全效果ハ其ノ200倍ナリ。即チ1, O匹ノ最大效果ハ罹患200, 000名ナリ。

2° 效果ハA, B, E, D, Oヲ變數トスル時次ノ如ク表ハテル。